居住文化を保全継承するための住宅とミュージアムの統合事例に関する考察

19RA125　　田上　夏伊
指導教員　大原一興教授　藤岡泰寛准教授

１．研究の背景と目的

1-1.　研究の背景

現在それぞれの地域で蓄積されてきた固有の居住文化を尊重し、既存の民家や集落を保存するだけでなく博物館化する動きやエコミュージアム（地域まるごと博物館）化が注目されてきている。

野外博物館では、歴史的に価値のある建築物を移築保存し、建築物単体の保存を主目的に、生きた歴史展示活動（Living History Movement）[1)]として、往時の居住文化の再現や演示などをおこなう展示技術・手法として発展してきている。

一方、地域に存在している現地保存型の古民家や、文化財的価値の高くない庶民住宅は、一部の地域で、これらの民家を巻き込んで地域全体を博物館化するエコミュージアムとして展開しているところもある。

このように居住文化を保存する手法は様々に発展してきたがそれらを横断的にとらえた研究はなされておらず、「いえの博物館化」という共通の視点からその目的と意義・具体的な手法を整理することで相互参照できるデータベースの枠組みが構築されることが望ましい。

1-2.　研究の目的と方法

本研究では、国内の住宅と博物館の統合事例を広く収集し考察することによって、本研究の対象となる概念に基づいた枠組みを整理し、類型を提示し住宅と博物館を統合する手法の整理とその社会的効果を考察することを目的とする。具体的には、全国の事例を全国博物館総覧他の資料から収集分類し住宅と博物館の統合形態と博物館活動を軸に分析考察を行うことにより各々の意義と有効性を明らかにする。また補足的に本研究の対象外の事例と比較考察を行った。主要な事例については事例集を資料として作成した。

1-3.　『全国博物館総覧』の概要

『全国博物館総覧』は、日本博物館協会の調査による全国の博物館情報を収録している。これをもとに事例の収集、分析を行った。全国の概要を表１に示す。

２.「住宅とミュージアムの統合」の類型化

2-1.　統合形態分類

対象事例を「統合形態」によって大きく以下の３通りに分類した。

Ⅰ【地域】: 地域をまるごと博物館化したもの。伝統的建造物群保存地区においては統一した意匠の建築群や、河畔や通りなど都市構造がはっきりしていて領域が分かりやすい。エコミュージアムにおいては地域に点在するもの（本研究では住宅）を展示物としそれらを地域住民が利用し居住文化を普及する。その地域住民の活動やネットワークを博物館と捉えている。

Ⅱ【ミュージアム施設】: 住宅を館内又は敷地内に展示収蔵資料や付属施設として有する博物館施設。住まいながら自力で運営している博物館、建築物を対象とす

表１　全国博物館総覧における該当事例

都道府県	総事例数	対象事例数（割合）	都道府県	総事例数	対象事例数（割合）	都道府県	総事例数	対象事例数（割合）
北海道	266	51(19%)	石川県	99	21(21%)	岡山県	90	19(21%)
青森県	63	7(11%)	福井県	72	12(17%)	広島県	82	11(13%)
岩手県	82	18(22%)	山梨県	62	9(15%)	山口県	81	13(16%)
宮城県	85	18(21%)	長野県	213	46(22%)	徳島県	37	8(22%)
秋田県	78	9(12%)	岐阜県	133	22(17%)	香川県	42	3(7%)
山形県	72	18(25%)	静岡県	109	15(14%)	愛媛県	73	11(15%)
福島県	79	20(25%)	愛知県	153	22(14%)	高知県	36	3(8%)
茨城県	80	13(16%)	三重県	55	8(15%)	福岡県	94	11(12%)
栃木県	77	13(17%)	滋賀県	61	14(23%)	佐賀県	47	10(21%)
群馬県	88	15(17%)	京都府	112	21(19%)	長崎県	53	13(25%)
埼玉県	97	17(18%)	大阪府	82	15(18%)	熊本県	47	8(17%)
千葉県	89	17(19%)	兵庫県	152	24(16%)	大分県	36	7(19%)
東京都	266	40(15%)	奈良県	40	6(15%)	宮崎県	38	7(18%)
神奈川県	135	18(13%)	和歌山県	36	8(22%)	鹿児島県	84	8(10%)
新潟県	131	26(20%)	鳥取県	26	3(12%)	沖縄県	57	7(12%)
富山県	79	11(14%)	島根県	58	10(17%)	合計	4127	706(17%)

凡例　　他に比べ件数の多いもの、割合の高いもの　　他に比べ件数の少ないもの、割合の低いもの

Study on the cases of integration of housing and museum to preserve and inherit the living culture
Kai TAGAMI (Supervisor:Prof. Kazuoki OHARA, Assoc Prof. Yasuhiro FUJIOKA)
KeyWords : living environment, dwellings, museum

る博物館も含まれる。野外博物館は移築した複数の民家を展示する民家園や、現地保存型でも保存だけでなく展示や調査研究を併せ持つミュージアム機能を有するものが多く見受けられるので「ミュージアム施設」に分類される。その他建築博物館、DIY ミュージアムを含む。

Ⅲ【住宅、住宅型施設】: 住宅単体そのものを展示対象としているもの。また、住宅やその附属屋を空間として活用して博物館化しているもの。自宅を自らのコレクションを展示する場として地域に開放し博物館活動を行っているものも含む。

2-2. 博物館活動

博物館活動を以下の５つに分類した。

A【居住環境展示機能】: 居住環境を保存公開するとともに民俗資料の展示収蔵を行う。

B【コレクション・ストーリー展示機能】: 作品等のコレクションを展示する、あるいは歴史や業績、エピソードなどを伝える。

C【建築資料保全機能】:建築史技術史的な価値の保全。

D【教育普及機能】: 各種講座や伝統的な文化活動等の学習の場として利用。

E【地域交流機能】: 博物館機能以外の積極的な転用による、市民団体や地域住民等の活動拠点。

３．各地の「住宅とミュージアムの統合」

形態ごとに件数が多い都道府県とその特徴を示す。

3-1. 【地域】

表２　統合形態に該当する事例数

Ⅰ.地域	件数	Ⅱ-1.屋外展示	件数
岡山県	7	東京都	23
富山県	4	岩手県	14
石川県	3	長野県	14
福井県	3	愛知県	13
滋賀県	3	新潟県	12
Ⅱ-2.屋内展示	**件数**	**Ⅲ.住宅**	**件数**
北海道	23	長野県	23
東京都	13	北海道	16
長野県	10	新潟県	16
愛知県	7	兵庫県	16
京都府	6	石川県	15

岡山県と富山県では重要伝統的建造物群保存地区に属するものが多い。岡山県では倉敷市倉敷川畔の商家町に属するものが４件、矢掛町矢掛宿の宿場町に属するものが２件みられる。それらは江戸時代から現代まで現地で存続してきた蔵をミュージアムとして転用しているものがほとんどである。

富山県では南砺市の山村集落に属するものが３件みられる。いずれも合掌造りの民家を博物館化することで当時の生活の様子を展示するとともに民具、農具などの民俗資料を収蔵展示している。農業や養蚕だけでなく、加賀藩の藩政を支えていた火薬の原料となる塩硝製作のような産業資料の展示もみられる。また、砺波平野の散居村を展示対象とするミュージアムも１件みられる。

3-2. 【ミュージアム施設（屋外展示）】

野外博物館に該当するものは岩手県で４件、東京都で３件、愛知県が２件、新潟県が１件である。長野県は０件である。岩手県と東京都では「遠野ふるさと村」や「府中市郷土の森博物館」等のその地域固有の民家を現地で復元展示しているものが良く見られた。愛知県では全国から明治期の貴重な建築物を移築した「博物館明治村」と、世界７０数か国から資料を収集し地域・民族ごとに生活空間を復元展示している「野外民族博物館リトルワールド」があり特徴的である。

東京都では、板橋区立郷土資料館に武蔵野の茅葺寄棟屋根の民家・納屋・水屋・井戸・屋敷林がセットになっている。

岩手県盛岡市にある岩手県立博物館には国重文の藤野家住宅（直家）と旧佐々木家住宅（曲家）が移築してある。盛岡市公民館郷土資料館では、隣接地に国重文の旧中村家住宅（商家）を移築している。

3-3. 【ミュージアム施設（屋内展示）】

北海道では、道具による暮らしの再現展示が最も多く見られる。アイヌ民族の生活空間や開拓当時の屯田兵屋の様子が展示されている。

東京都では、民家の屋内展示が最多であった。特に広い延べ床面積を持つ江戸東京博物館は江戸時代の長屋や商家を展示している。

3-4. 【住宅、住宅型施設】

長野県は全体の事例数が多いが、同様に全体の事例数が多い北海道、東京都と比べても【住宅】に該当するものが顕著に多い。長野県では転用を繰り返して現在まで残り続けてきたものが多くみられる。また昔の姿の保存状態が良いものも多く見られ、その中でも陣屋などの屋敷が７件であった。飛騨高山、南木曽の民家も多く、さらに吉村順三設計のアトリエを取り囲むようにつくられた「脇田美術館」やアントニン・レーモンドが自らのアトリエ兼別荘として設計した「ペイネ美術館」等の軽井沢ならではの博物館がある。

北海道では番屋が３件ではあるが他県に比べて多く

見られる。

新潟県では農家を博物館化し当時の生活の様子を展示するとともに民具、農具などの民俗資料を収蔵展示しているものが４件見られる。

４.博物館活動でみる「住宅とミュージアの統合」実態

4-1. 統合形態（図１）

「博物館の敷地内の屋外展示」と「野外博物館」のように住居、周辺環境、集落と展示対象が広がるにつれて教育普及活動の幅も広がり更に交流の場として多種多様な活動にまで発展していく。

それと同様に、「地域」を対象とした博物館はより広域を展示の対象とし地域交流もより活発であるということができる。

屋内展示は展示資料の保存において最も有効で居住環境展示機能が高くなる。逆に他の機能の割合が小さく総合的な展示活動が課題である。

4-2. 住宅の保存状態（図２）

移築して保存する割合は全体の３割程度で、現地保存は４割程で復元も合わせると６割程度になる。コレクション・ストーリー展示機能は移築の割合が小さく現地保存の割合が大きい。住宅ストックを利用した美術館が多い。また、再現の割合も大きく、これはアトリエや書斎の再現など住宅に付随する作業空間の再現によるものが多い。

4-3. 住宅種別（図３）

住宅附属屋は教育普及・地域交流に用いられやすい。茶室は一般への貸し出しが頻繁に行われる。蔵は展示室として使われる他コンサートや各種講座に用いられる。大きな住宅ほど附属屋や庭園・茶室等を有している。別荘・洋館は建築資料として保全され、かつ非日常の展示空間をもつ美術館としての活用が多い。

4-4. 展示建築物の時代別の特徴（図４）

古いほどその住宅の居住環境の希少価値は高まり、それ自体を展示保存する傾向が高まる。新しいほどその住宅の出来事やエピソードが展示されやすく、また、コレクションを展示するのにも適している。大正から江戸にかけて建築資料保全機能の割合が大きい。現代は比較的地域交流機能の割合が大きく、近年の博物館の役割として地域交流が求められていることが分かる。

５．博物館としての住宅の意義（表３）

「住宅とミュージアムの統合事例」に類似する展示内容を持つ博物館や資料を探し、その事例と比較するこ

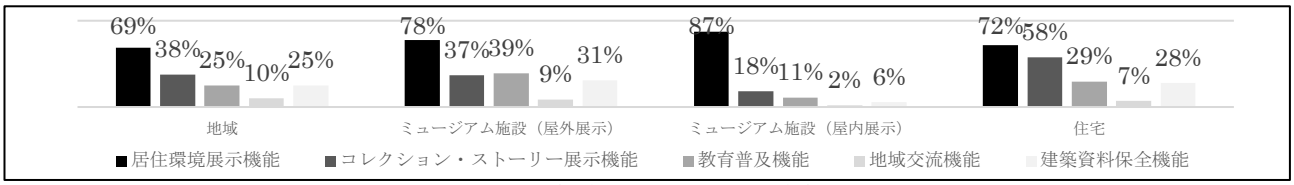

図１　統合形態における博物館活動の割合

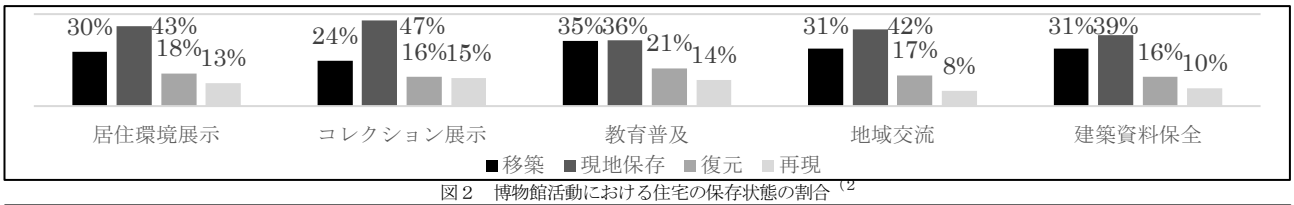

図２　博物館活動における住宅の保存状態の割合（2

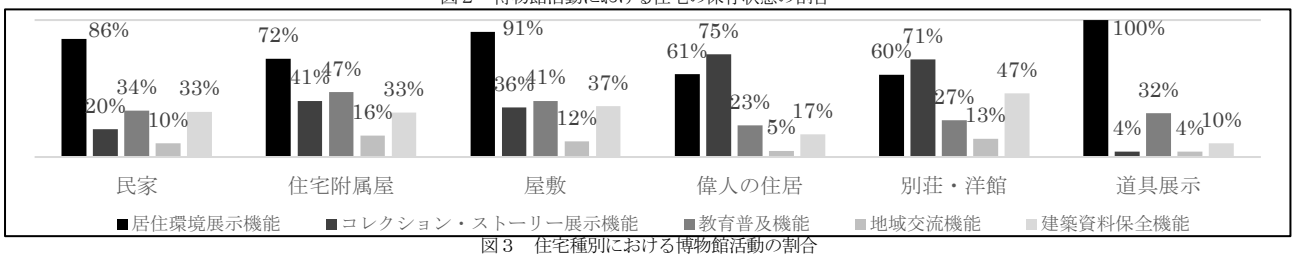

図３　住宅種別における博物館活動の割合

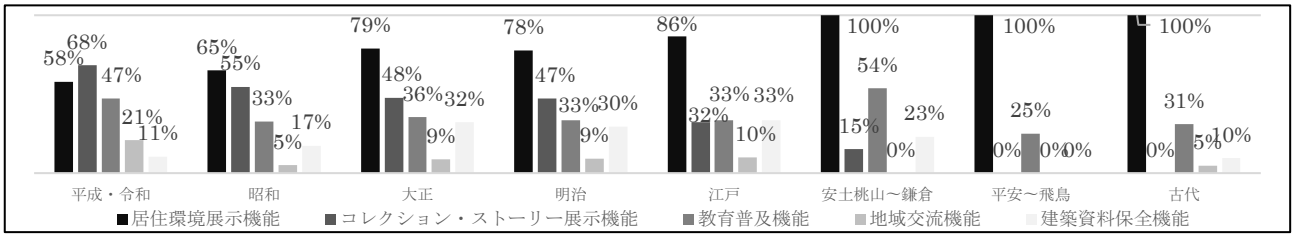

図４　展示建築物の時代区分における博物館活動の割合

表３　「住宅とミュージアムの統合」事例と類似博物館の比較

	Case1：マンガ	Case2：医療	Case3：養蚕	Case4：まち	Csse5 建築資材
統合事例	豊島区立トキワ荘マンガミュージアム	博物館明治村　清水医院	田島弥平旧宅	在林館	頴娃町空き家再生ミュージアム
概要	外観・内装は、マンガ家たちが切磋琢磨した当時のトキワ荘を忠実に再現している。昭和 20～30 年代のマンガ家たちの生活を垣間見ることができる。ペン入れなどが体験できるプログラムや当時のマンガ家の生活を追体験できる。「トキワ荘ゆかりの地散策マップ」を作成し当時の面影を残す街並みやモニュメントをマッピングしている。	木曽路の中程、妻籠（つまご）と木曽福島の中間、大桑村須原に建てられた医院である。木曽檜の伐りだしが生業の町である。地元出身の清水半次郎が東京で西洋医学を学び、地元へ帰って開業した。島崎藤村の姉が入院しており、小説「ある女の生涯」にも登場する。	幕末から明治にかけて、優良な蚕種（蚕の卵）を生産する養蚕技法「清涼育」を体系的に完成させ、規範となる養蚕建物も発案し、近代養蚕飼育法の確立を図った田島弥平の旧宅です。弥平が考案した養蚕建物は、空気循環を良くする２階建て、瓦葺、気抜き用の窓（櫓）付きの建物形式であり、以後全国の規範となりました。	在林館とは、館主の母が過ごした２つの部屋をまちに開いた小さなスペースである。館主の住まいとの２世帯住宅となっている。在林館は住まいやまちの歴史を語り継ぐ場所である。住まいの写真や図面や地図を収集し展示することは在林館の中心テーマである。まちの展示をしているとまちの方々からエピソードが集まってくる。また在林館はファミリーヒストリーの一部でもある。	これまで頴娃町において NPO として手掛けてきた実在する再生空き家群を舞台として、暮らしと仕事の繋がりを体感する実践型のミュージアムとして紹介。下記の３つのプログラムから構成される。〇各々の空き家を繋ぐ「石垣商店街くるくる市」などのイベント開催〇空き家再生を手がける人材育成のために研修会の開催〇10 件目となる空き家物件を「空き家再生研究所」として再生。
比較対象	京都国際マンガミュージアム	印西市立印旛医科器械歴史資料館	前橋市蚕糸記念館	世田谷区立郷土資料館	建材カタログ
概要	博物館的機能と図書館的機能を併せ持つ文化施設。資料をもとに進められる調査研究は、展示やセミナー、ワークショップという形で発表公開している。 建物は、昭和初期建造の元・龍池小学校校舎を活用し、当時の佇まいを残したもの。長年地域のシンボルであった小学校の役割を引き継ぐという表明でもある。	世界最多の新旧医科器械を収蔵する、世界唯一かつ世界最大の歴史的な医科器械の専門資料館。世界で初めて全身麻酔による乳がん摘出手術を行った華岡青洲の外科器具をはじめ、医療機器の歴史を物語る貴重な製品が多く収蔵されている。その数は 1,000 点を越える。	建物は，明治 45 年 6 月 11 日落成した国立原蚕種製造所の本館（旧蚕糸試験場事務棟）として建てられたもので，群馬県重要文化財に指定されている。敷島公園ばら園内に移築保存し「糸の町」前橋のシンボルとして後世に遺すために一般公開した。養蚕・製糸に関する用具・器械等を展示。	区制 30 周年記念事業の一環である新修世田谷区史の編纂（昭和 32~38 年）を契機として収集された古文書・古記録等の保存・般公開を目的に開館。区関連資料を中心に歴史資料・考古資料・民俗資料・絵画資料を収集し，常設展示では，世田谷の歴史が概観できる よう配慮した展示を行っている。	カタログとは商品や展示物などの品目を整理して書き並べたもので、目録や説明書、案内書をいう。建材カタログは各メーカーが製作する建材を掲載したもの。
	住宅であることの優位性				
保存収集	生活空間＋蔵書	小学校 大量の蔵書	医院＋住居	消防署 医療機器	養蚕農家	養蚕用具	町の記憶	古文書・歴史資料	空き家	建材
調査研究	地域への回遊 地域のミュージアム化	小学校 地域のシンボル	エピソード	－	周辺農家（現居住）	養蚕資料	地域住民の口伝による記憶の蓄積	調査研究	活用事例	－
展示教育普及	漫画家道体験＋作業空間(＝生活空間)	漫画とは何か	診療・処方・待合 東洋医学と西洋建築	希少価値の高い医療機器	産業の一部としての住居	体験講座	貸館 ファミリーヒストリー	野外歴史教室 歴史講座	空間化したカタログ	－

とにより、住宅であることの意義と効果を明らかにすることを試みた。Case1 や Case2 のように住宅が持つ総合的な情報により博物館活動の質を高めているものや、Case3 のように本来住宅と保存資料が密接な関係を持っていることで住宅を博物館化することが最も自然な展示手法であるものや、Case4 のように周辺地域にまつわる情報を保存収集の対象とすることで、地域住民の住むことの専門家としての調査研究が行われている例がある。Case5 は比較対象が資料集であるが、住宅を空間化した資料として展示することでより総合的な教育普及を可能としている。

これらの事例における居住環境はかつて産業や地域、居住文化等と切り離せない関係性を持っていたものであり、その環境とともに博物館化することが展示手法において最も望ましい形である。

６．まとめと課題

各々の統合形態により住宅であることの特徴が以下のように把握できた。

Ⅰ【地域】: その手法的特徴として教育普及や地域交流への展開がみられる。この場合は個人資産など博物館資料として所有することのできないものが様々で保存・展示活動が困難であり、地域住民同士さらには行政等を巻き込んだネットワークの構築が課題である。

Ⅱ【ミュージアム施設】: 展示手法としては屋外展示が多く、博物館付属施設の活用で教育普及や建築資料保全への展開がみられる。一方、居住文化と一体的な展示活動がなされていないものも少なくない。

Ⅲ【住宅、住宅型施設】: 活動の方法は作品の展示を行う、文化活動を行うなど様々だが、住環境や歴史の保全に有効である。しかし、小規模単体で活動するため、環境整備や持続的な活動などの課題が大きい。ここに対しては、公的な支援やボランティアなどのサポート体制が必要となっている。

注　1）杉本尚次により生活史復元運動とも紹介されている。
　　2）復元は移築復元を含まず現地での復元保存とする。

参考文献

1. 「全国博物館総覧」（財）日本博物館協会
2. 「エコミュージアムへの旅」1999 年　大原一興　著　鹿島出版会
3. 「民家村の旅」1993 年　大野敏　著　INAX
4. 「野外博物館の研究」2009 年　落合知子　著　雄山閣
5. 「世界の野外博物館−環境との共生をめざして」2000 年　杉本尚次著　学芸出版社
6. 「世界の民家園−移築保存型野外博物館のデザイン」2012 年　岸本章　著　鹿島出版会
7. 「居住文化とミュージアム−ネットワークでつなぐ新しい博物館のかたち　建築計画編」2016 年　一般社団法人日本建築学会　著

謝辞　本研究は科研費(基礎研究(B)課題番号 19H02313 代表：大原一興)の助成を受けたものです。本研究実施に際してご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。